

文化芸術支援策充実にに向けた基礎調査業務

文化芸術活動者アンケート調査
報告書

令和4年11月

札幌市 市民文化局

目 次

I. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の内容	1
(3) 凡例	2
II. 調査の結果	3
1. 基本情報	3
1-1 性別	3
1-2 居住地	3
1-3 年代	4
1-4 現在、最も力を入れて取り組んでいる文化芸術活動	4
1-5 文化芸術活動への関わり方と収入の状況	5
2. 文化芸術活動への支援	8
2-1 不足している・課題だと感じていること	6
2-2 文化芸術活動に必要なだと思う支援	10
2-3 文化芸術活動に必要なと感じる助成事業	16
2-4 その他文化芸術活動に関して期待する支援	17
3. 札幌市民交流プラザ	19
3-1 札幌市民交流プラザ内施設の認知度	19
3-2 札幌文化芸術交流センターを知ったきっかけ	20
3-3 札幌文化芸術交流センターの事業・サービスの認知度	21
3-4 文化芸術サポートサービスの利用経験	22
4. 他分野との連携	23
4-1 他分野との連携の経験	23
4-2 他分野との連携意向	24
4-3 現在、接点・関わりのある「社会分野」	25
4-4 今後、接点・関わりを持ちたい「社会分野」	26
4-5 連携を進めるための課題	27
4-6 他分野との交流意向	29
5. まとめ	30
III. 調査票	31

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

札幌市では、文化芸術活動に関わる方々が新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることも踏まえて、文化芸術活動に携わっている方々の現状、課題及びニーズ等の実態を幅広く把握するためのアンケート調査として、2021年に「札幌市文化芸術活動実態調査」を実施している。




この調査で、「文化芸術活動をするにあたって不足している・課題だと感じていること」の設問に複数項目で7割程度の回答があった一方、「困っていることはない」とする回答がわずか3.5%であったことや、「助成金・補助金を申請しなかった理由」についても「情報を知らなかった」「自分の活動に適した助成金・補助金がなかった」との回答が多数を占めており、文化芸術活動における支援充実の必要性が明らかになっている。

本調査は、相談窓口の設置や助成金事業等の文化芸術活動者への支援事業について、文化芸術活動者への追加アンケートにより、さらなる充実策の検討に資する資料の作成を目的とする。

(2) 調査の内容

- | | |
|---------|----------------------|
| 1. 調査対象 | 札幌市に活動の拠点を持つ文化芸術活動者 |
| 2. 調査方法 | Web アンケートにて実施 |
| 3. 調査期間 | 令和4年10月1日～令和4年10月31日 |
| 4. 回収数 | 188 |

(3) 凡例

- ・ <SA>はシングルアンサー（単一回答）、<MA>はマルチアンサー（複数回答）を表わす。また、集計にあわせて回答形式を変更している項目もあるため、調査時の形式とは異なるものもある。
- ・ サンプル数 N は、注記のない限り非該当者（その設問に答える必要のない方）を除いた数であるため、回収数以下になる場合がある。
- ・ 割合は、原則として回答不明者を除いて集計している。
- ・ 集計結果は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位までを表示しているため、割合の合計が 100.0 にならない場合がある。
- ・ 複数の選択肢を回答可能な設問については、各選択肢の回答数を回答全体で割った割合を表示している。そのため、各選択肢の割合の合計は 100.0 を超える場合がある。
- ・ グラフでは、最も高い割合・件数が多い項目は （赤色の丸）、2 番目に割合が高い・件数が多い項目は （青色の丸）、3 番目に割合が高い・件数が多い項目は （緑色の丸）で印をつけている（項目数によっては 2 番目に高い割合・多い件数数、3 番目に高い割合・多い件数には印がついていないことがある）。

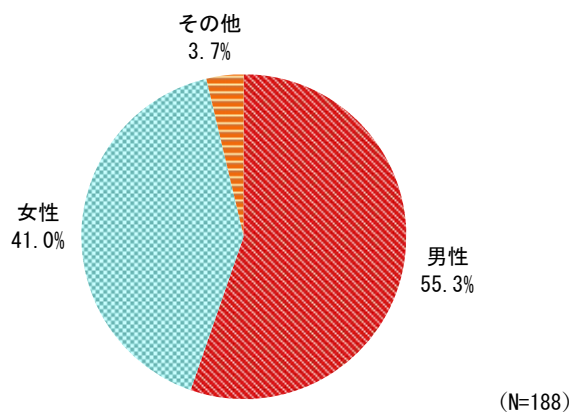
II. 調査の結果

1. 基本情報

1-1 性別

Q1. あなたの性別をお答えください。<SA>

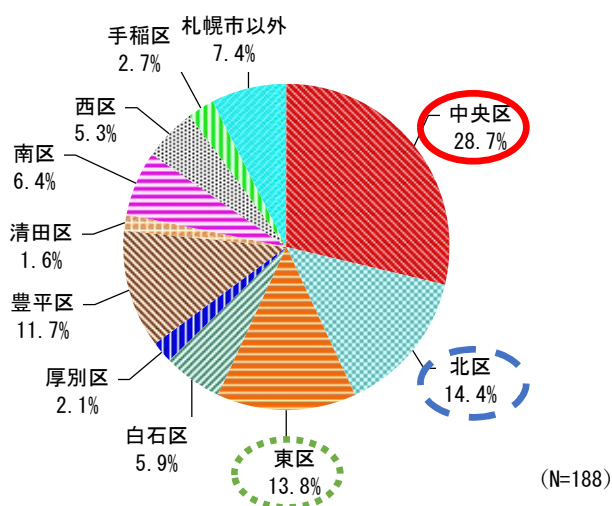
女性に比べ、男性の割合がやや高い。



1-2 居住区

Q2. お住まいの区をお答えください。<SA>

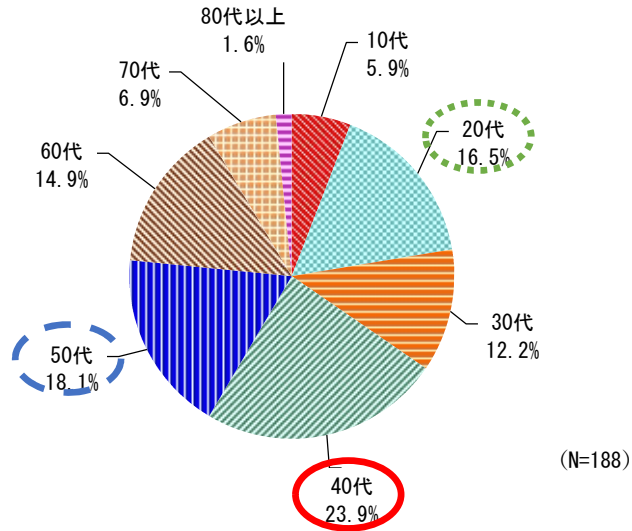
「中央区」の割合が最も高く 28.7%、次いで「北区 (14.4%)」、「東区 (13.8%)」の順となっている。



1-3 年代

Q3. 年齢をお答えください。<SA>

「40代」の割合が最も高く23.9%、次いで「50代(18.1%)」、「20代(16.5%)」の順となっている

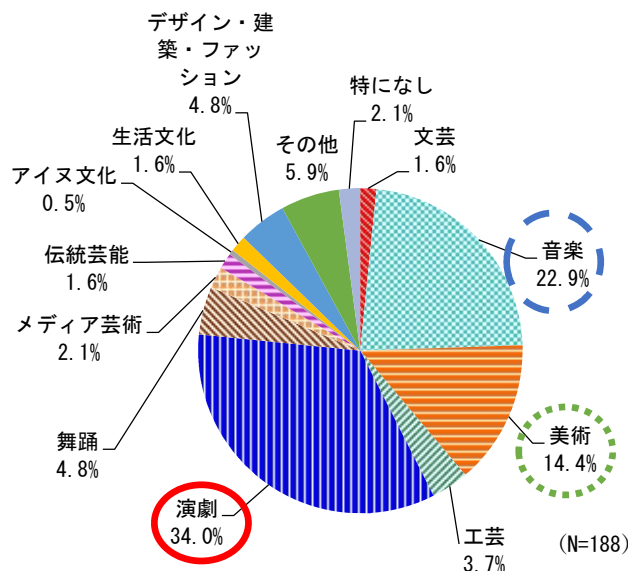


1-4 現在、最も力を入れて取り組んでいる文化芸術活動

Q4. 現在、あなたが最も力を入れて取り組んでいる文化芸術活動の分野をひとつだけお答えください。<SA>

「演劇」の割合が最も高く34.0%、次いで「音楽(22.9%)」、「美術(14.4%)」の順となっている。上位3項目と「その他」以外は、いずれも5%未満だった。

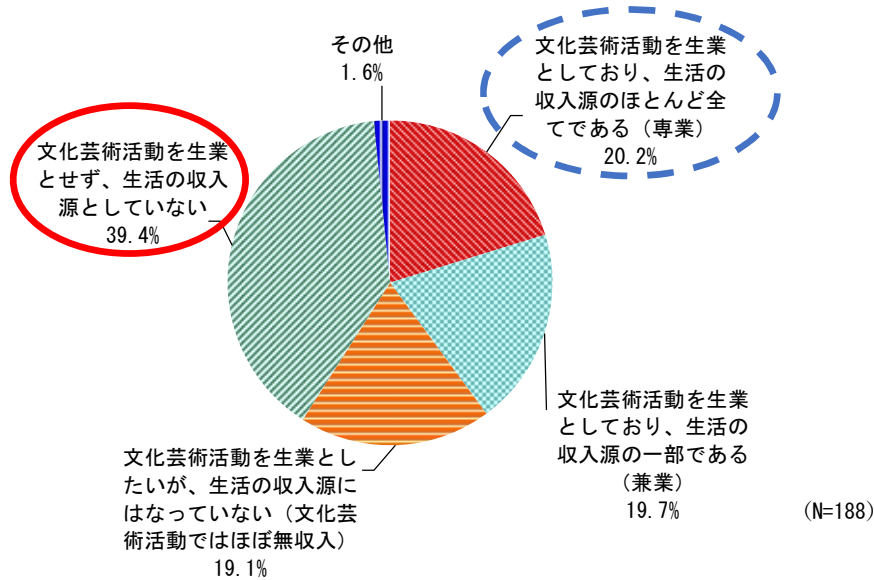
「その他」としては、「映画/映像」「人形劇」「書道」「まちづくり・ランドスケープデザイン」などがあげられた。



1-5 文化芸術活動への関わり方と収入の状況

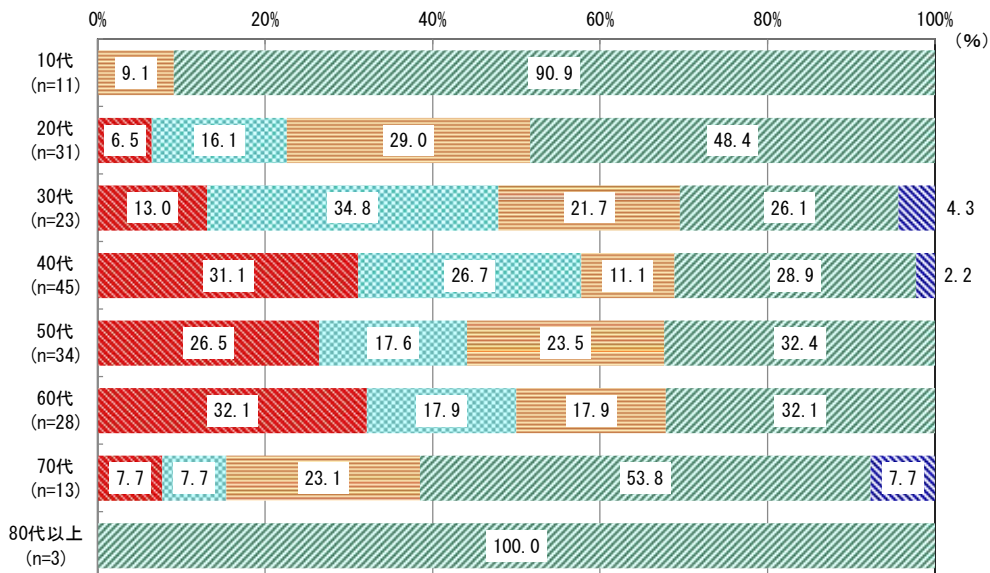
Q5. あなたの「文化芸術活動への関わり方」と「文化芸術活動による収入の状況」について、最も近いものをひとつお答えください。 <SA>

「生活の収入源としていない」の割合が最も高く 39.4%、次いで「専業 (20.2%)」、「兼業 (19.7%)」、「生業を目指しているが収入源となっていない (19.1%)」の順となっている。



(Q5 収入状況 × Q3 年代)

年代別にみると、「専業」の割合は 40～60 代で他の年代に比べ高く、3 割前後を占めている。「生業を目指しているが収入源となっていない」の割合は特に 20 代で高く、約 3 割を占めている。



- 文化芸術活動を生業としており、生活の収入源のほとんど全てである (専業)
- 文化芸術活動を生業としており、生活の収入源の一部である (兼業)
- 文化芸術活動を生業としたいが、生活の収入源にはなっていない (文化芸術活動ではほぼ無収入)
- 文化芸術活動を生業とせず、生活の収入源としていない
- その他

2. 文化芸術活動への支援

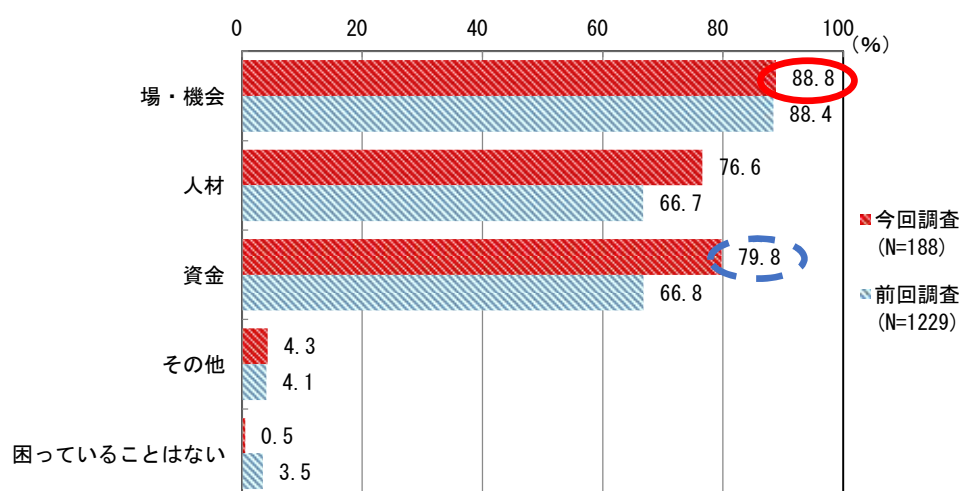
2-1 不足している・課題だと感じていること

Q6. あなたが文化芸術活動をするにあたって不足している・課題だと感じていることで、あてはまるものを全てお答えください。<MA>

「困っていることはない」と回答した人は1名のみで、ほとんどの人が活動にあたって課題を感じている。

分野別では「場・機会」に関する項目の回答率が最も高く88.8%、次いで「資金（79.8%）」、「人材（76.6%）」の順となっている。

前回調査と比較すると、「人材」「資金」に関する項目では前回調査に比べ回答率が高く、いずれも10ポイント程度の差がみられた。



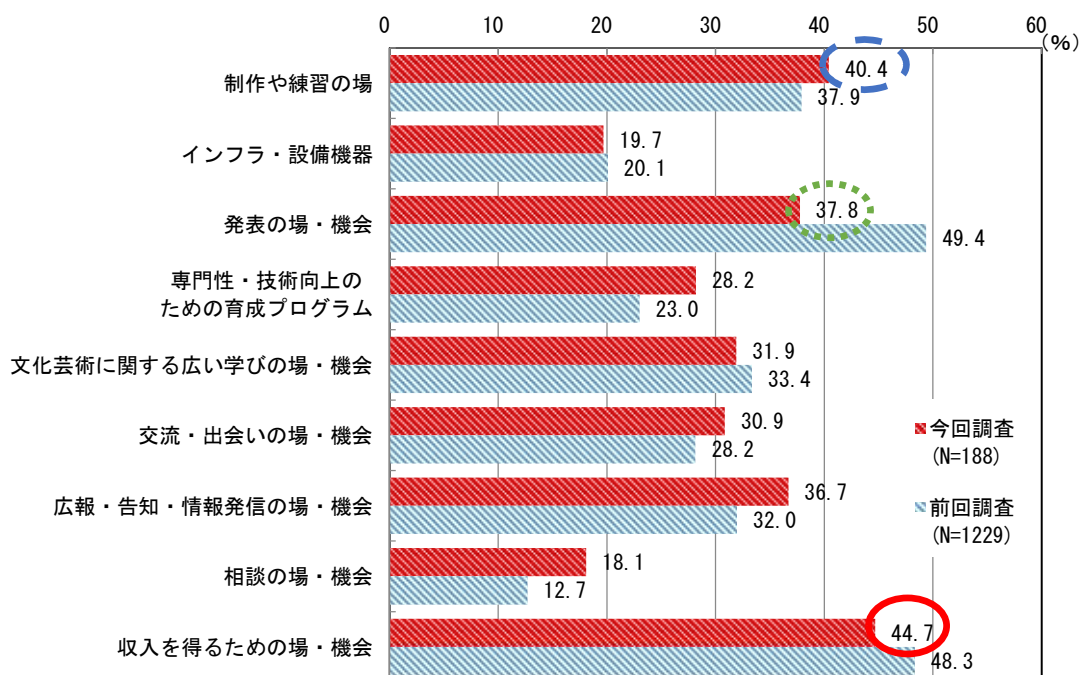
「その他」としては、以下のような意見があった。

- ・行政職員の文化政策施策や、芸術に対する理解（同意見2件）
- ・感染症対策への支援（同意見2件）
- ・既存の美術関連施設の作品収蔵資金、主催展示のための資金と機会の不足

〈場・機会に関する課題〉

場・機会に関する課題としては、「収入を得るための場や機会」の回答率が最も高く 44.7%、次いで「制作や練習の場 (40.4%)」、「発表の場・機会 (37.8%)」、「広報・告知・情報発信の場・機会 (36.7%)」などの順となっている。

前回調査と比較すると、「発表の場・機会」では前回調査に比べ回答率が低く 10 ポイント以上の差がみられるが、他の項目では大きな差はみられない。



(Q6 場・機会の課題×Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業(兼業)〉では「専門性・技術向上のための育成プログラム」、〈文化芸術活動が生業(兼業)〉及び〈生業としたいがほぼ無収入〉では「広告・告知・情報発信の場・機会」「収入を得るための場・機会」「相談の場・機会」の項目で他に比べ回答率が高く、平均値より 10 ポイント以上の差がみられる。

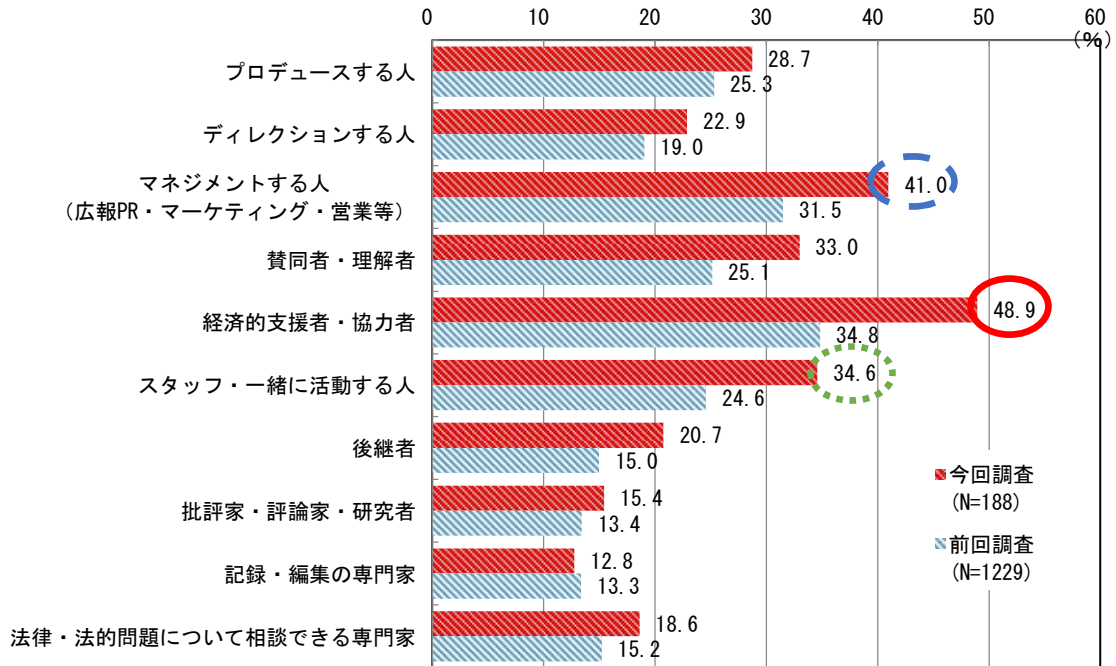
	制作や練習の場	インフラ・設備機器	発表の場・機会	専門性・技術向上のための育成プログラム	文化芸術に関する広い学びの場・機会	交流・出会いの場・機会	広報・告知・情報発信の場・機会	相談の場・機会	収入を得るための場・機会
全体(N=188)	40.4	19.7	37.8	28.2	31.9	30.9	36.7	18.1	44.7
文化芸術活動が生業(専業) (n=38)	23.7	23.7	39.5	34.2	34.2	28.9	31.6	10.5	47.4
文化芸術活動が生業(兼業) (n=37)	37.8	24.3	35.1	45.9	40.5	37.8	56.8	32.4	56.8
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	47.2	16.7	41.7	27.8	33.3	27.8	47.2	30.6	66.7
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	47.3	17.6	36.5	17.6	27.0	31.1	24.3	9.5	27.0
その他(n=3) ※参考値	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3

■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

〈人材に関する課題〉

「人材」に関する課題としては、「経済的支援者・協力者」の回答率が最も高く 48.9%、次いで「マネジメントする人 (41.0%)」、「スタッフ・一緒に活動する人 (34.6%)」、「賛同者・理解者 (33.0%)」などの順となっている。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で前回調査に比べ回答率が高く、特に「経済的支援者・協力者」「スタッフ・一緒に活動する人」で 10 ポイント以上の差がみられる。



(Q6 人材の課題 × Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業 (兼業)〉ではほぼすべての項目で他に比べ回答率が高く、人材面での課題を多く抱えていることがうかがえる。

また、〈文化芸術活動が生業 (専業)〉では「マネジメントする人」、〈生業としたいがほぼ無収入〉では「経済的支援者・協力者」で他に比べ回答率が高く、全体平均値と 10 ポイント以上の差がみられる。

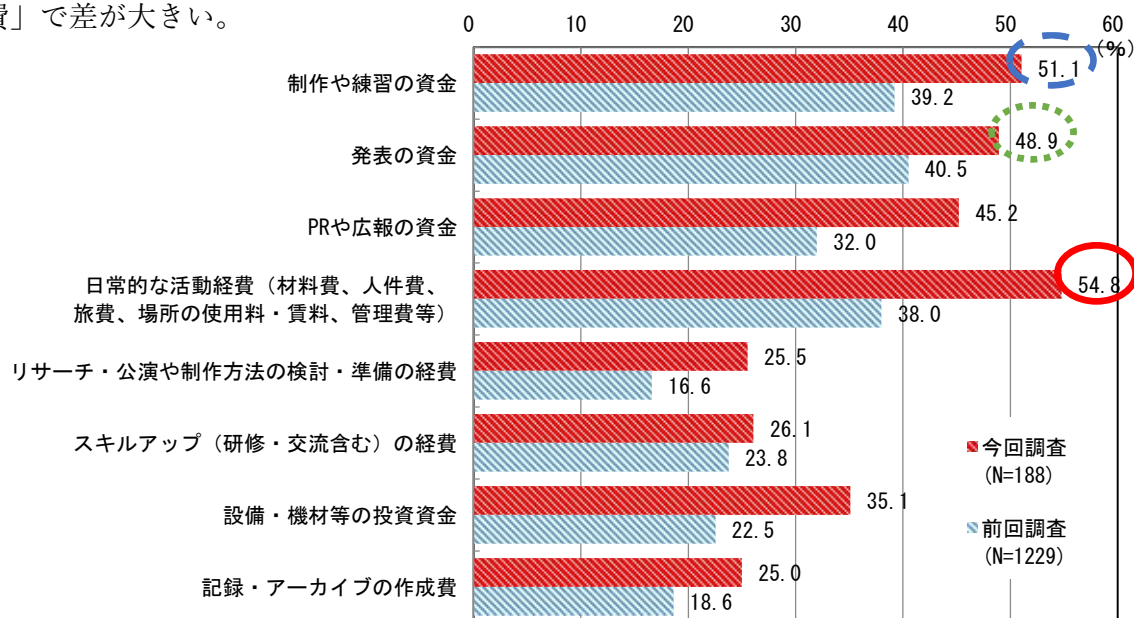
	プロデュースする人	ディレクションする人	マネジメントする人	賛同者・理解者	経済的支援者・協力者	スタッフ・一緒に活動する人	後継者	批評家・評論家・研究者	記録・編集の専門家	法律・法的問題について相談できる専門家
全体(N=188)	28.7	22.9	41.0	33.0	48.9	34.6	20.7	15.4	12.8	18.6
文化芸術活動が生業 (専業) (n=38)	26.3	21.1	55.3	34.2	50.0	39.5	18.4	13.2	10.5	26.3
文化芸術活動が生業 (兼業) (n=37)	56.8	45.9	64.9	51.4	67.6	48.6	43.2	37.8	18.9	21.6
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	36.1	25.0	47.2	25.0	69.4	33.3	13.9	13.9	19.4	27.8
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	13.5	10.8	20.3	27.0	31.1	25.7	14.9	6.8	8.1	9.5
その他(n=3) ※参考値	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

〈資金に関する課題〉

「資金」に関する課題としては、「日常的な活動経費」の回答率が最も高く 54.8%、次いで「制作や練習の資金（51.1%）」、「発表の資金（48.9%）」などの順となっている。

前回調査と比較すると、いずれも回答率は前回調査に比べ高く、特に「日常的な活動経費」で差が大きい。



〈Q6 資金の課題×Q5 収入状況〉

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（兼業）〉では「設備・機材等の投資資金」「スキルアップの経費」「リサーチ・公演や制作方法の検討・準備の経費」で他に比べ回答率が高く、全体平均値と 10 ポイント以上の差がみられる。

また、〈生業としたいがほぼ無収入〉では、「制作や練習の資金」「発表の資金」「日常的な活動経費」「PRや広報の資金」「記録・アーカイブの作成費」で回答率が高く、平均値と 10 ポイント以上の差がみられる。

	制作や練習の資金	発表の資金	PRや広報の資金	日常的な活動経費	リサーチ・公演や制作方法の検討・準備の経費	スキルアップ（研修・交流含む）の経費	設備・機材等の投資資金	記録・アーカイブの作成費	その他
全体(N=188)	51.1	48.9	45.2	54.8	25.5	26.1	35.1	25.0	4.3
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	47.4	28.9	47.4	52.6	18.4	26.3	34.2	15.8	13.2
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	54.1	54.1	54.1	62.2	37.8	45.9	51.4	29.7	0.0
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	75.0	72.2	63.9	69.4	33.3	30.6	44.4	41.7	2.8
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	40.5	45.9	31.1	45.9	18.9	14.9	24.3	20.3	1.4
その他(n=3) ※参考値	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3

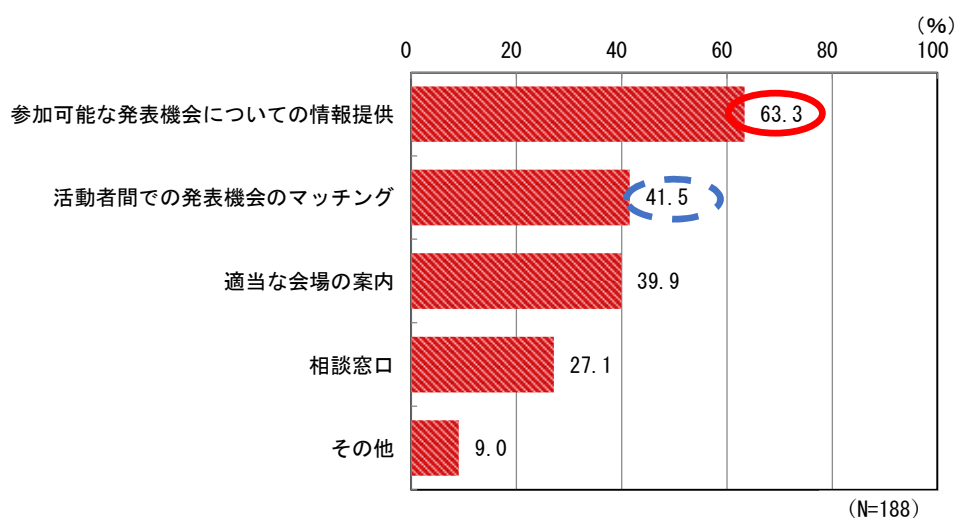
■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

2-2 文化芸術活動に必要なだと思う支援

Q7. 文化芸術活動に必要なと思う支援について、あてはまるものを全てお答えください。

(1) 「発表の場・機会」についての支援策<MA>

「参加可能な発表機会についての情報提供」の回答率が最も高く 63.3%、次いで「活動者間での発表機会のマッチング (41.5%)」、「適当な会場の案内 (39.9%)」などの順となっている。



「その他」としては、以下のような意見が出された。

場・機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して参加できる公共の企画（新人向け・ベテラン向け）があるとよい ・場所の話より、展示の内容や質が大事 ・たくさんの観客、多くの関係者に見てもらえる場の創出 など
経済的負担の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル（ディスタンス）を行うと会場費の負担が多いため、会場支援資金は継続してほしい ・空き家など、無料施設の提供 ・経済的負担を軽くする方策 など
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市や市有の文化施設が、率先して札幌で活動する作家と連携するようなプログラムを企画することが必要 ・芸術創造活動の現場の声を受け止める窓口の開設 ・行政職員や文化施設指定管理者の創造活動や文化政策への理解を高める研修 など

(Q7 発表の場・機会に係る支援策×Q5 収入状況)

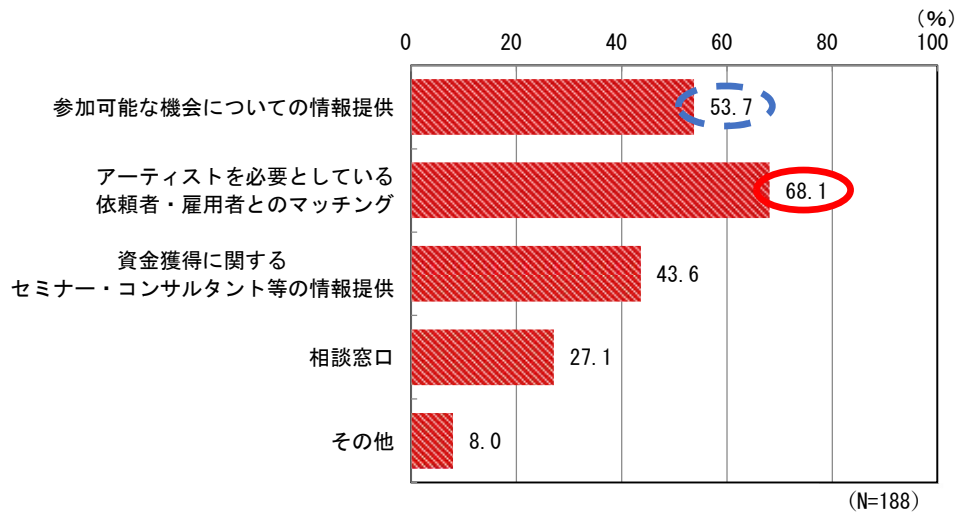
収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（兼業）〉では「活動者間での発表機会のマッチング」「相談窓口」の回答率が他に比べ高く、全体平均値と 10 ポイント以上の差がみられる。

	参加可能な発表機会 についての情報提供	活動者間での発表機 会のマッチング	適当な会場の案内	相談窓 口	そ 他
全体(N=188)	63.3	41.5	39.9	27.1	9.0
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	57.9	31.6	39.5	26.3	21.1
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	67.6	54.1	37.8	40.5	5.4
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	63.9	47.2	36.1	22.2	8.3
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	64.9	37.8	41.9	24.3	2.7
その他(n=3) ※参考値	33.3	33.3	66.7	0.0	66.7

■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

(2) 「収入を得るための場・機会」についての支援策<MA>

「アーティストを必要としている依頼者・雇用者とのマッチング」の回答率が最も高く68.1%、次いで「参加可能な機会についての情報提供（53.7%）」、「資金獲得に関するセミナー・コンサルタント等の情報提供（43.6%）」などの順となっている。



「その他」としては、以下のような意見が出された。

販売・マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ・作品オークション ・東京アートフェアのような販売可能な祭典の開催 ・映画祭のマーケット機能を利用できるような支援 など
提言・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の自主事業に対して提言提案できる機会 など
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの学びの場 ・お金の管理ができる経営スタッフの増員 など

(Q7 収入を得るための場・機会に係る支援策×Q5 収入状況)

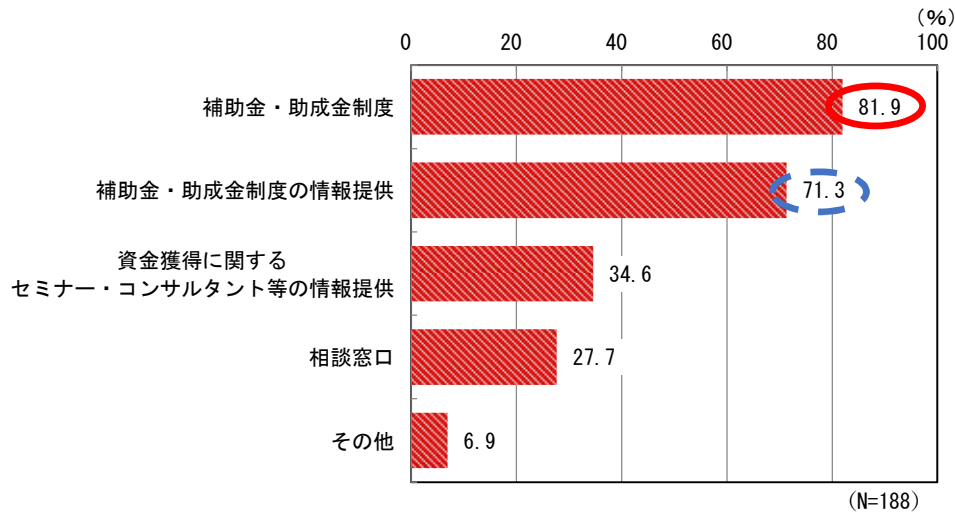
収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（兼業）〉及び〈生業としたいがほぼ無収入〉では「アーティストを必要としている依頼者・雇用者とのマッチング」の回答率が高く、8割を超えている。

	参加可能な機会についての情報提供	アーティストを必要としている依頼者・雇用者とのマッチング	資金獲得に関するセミナー・コンサルタント等の情報提供	相談窓口	その他
全体(N=188)	53.7	68.1	43.6	27.1	8.0
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	57.9	76.3	36.8	21.1	15.8
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	51.4	83.8	51.4	29.7	8.1
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	66.7	83.3	50.0	27.8	5.6
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	47.3	50.0	41.9	29.7	4.1
その他(n=100)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3

■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

(3) 「発表の資金」についての支援策<MA>

「補助金・助成金制度」の回答率が最も高く 81.9%、次いで「補助金・助成金制度の情報提供 (71.3%)」、「資金獲得に関するセミナー・コンサルタント等の情報提供 (34.6%)」などの順となっている。



「その他」としては、以下のような意見が出された。

雇用支援	<ul style="list-style-type: none"> ・公立劇場に専属の劇団をつくり、アーティストの雇用システムをつくる。公立劇場以外でも中間支援団体などが、アーティストやそれを支える人々を雇用するシステムができるとよい。
資金調達	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドレイジング相談に関する専門家 ・施設で公演時の募金活動の制限の撤廃などファンドレイズの支障となる条例や規約の適宜見直し など
支援制度のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・多重化・曖昧化する文化芸術活動のジャンルを越えてカバーできる支援制度 ・補助金・助成金の応募手続きが煩雑 など

(Q7 発表の資金に係る支援策×Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（兼業）〉では「資金獲得に関する情報提供」が、〈生業としたいがほぼ無収入〉では「補助金・助成金制度の情報提供」の回答率が他に比べ高く、全体平均値と10ポイント以上の差がみられる。

	補助金・助成金制度	補助金・助成金制度の情報提供	資金獲得に関するセミナー・コンサルタント等の情報提供	相談窓口	その他
全体(N=188)	81.9	71.3	34.6	27.7	6.9
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	89.5	65.8	28.9	31.6	5.3
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	78.4	78.4	56.8	32.4	5.4
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	86.1	83.3	33.3	30.6	11.1
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	79.7	64.9	27.0	23.0	5.4
その他(n=3) ※参考値	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3

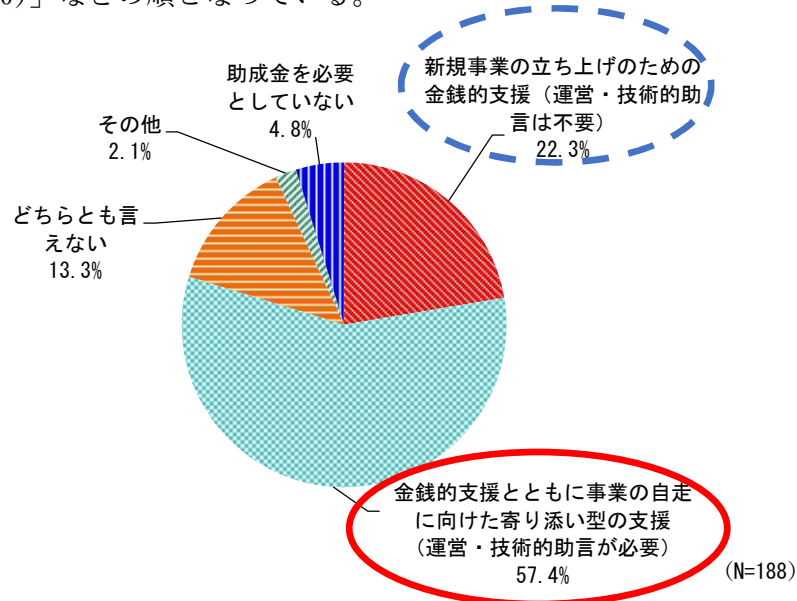
■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

2-3 文化芸術活動に必要だと感じる助成事業

Q8. 現在のあなたの活動に、より必要だと感じる助成事業の形態をひとつお答えください。

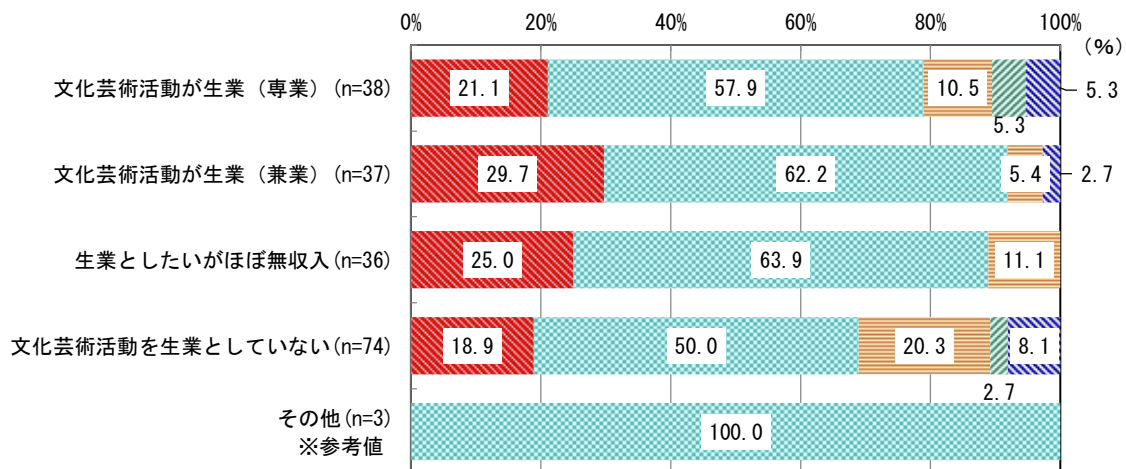
<SA>

「助成金を必要としていない」は4.8%と低く、大半の人が何らかの助成事業を必要としている。割合としては、「金銭的支援とともに事業の自走に向けた寄り添い型の支援」が最も高く57.9%、次いで「新規事業の立ち上げのための金銭的支援（運営・技術的助言は不要）」22.3%、「どちらともいえない（13.3%）」などの順となっている。



(Q8 必要な助成事業×Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（兼業）〉及び〈生業としたいがほぼ無収入〉では、「新規事業の立ち上げのための金銭的支援」・「金銭的支援とともに事業の自走に向けた寄り添い型の支援」の割合はどちらも他に比べ高く、支援を求める人が多いことがうかがえる。



- 新規事業の立ち上げのための金銭的支援（運営・技術的助言は不要）
- 金銭的支援とともに事業の自走に向けた寄り添い型の支援（運営・技術的助言が必要）
- どちらともいえない
- その他
- 助成金を必要としていない

2-4 その他文化芸術活動に関して期待する支援（自由記述）

Q9. その他、文化芸術活動に関して期待する支援等ございましたらお答えください。

<FA>

支援内容・支援対象に関する希望・要望としては、「場所の確保、会場費の助成に関するもの」が最も多く23件、次いで「資金面の支援に関するもの（12件）」、「広報・情報発信に関するもの（8件）」、「啓蒙・教育に関するもの（8件）」などの順となっている。

区分	件数	記載内容（抜粋）
支援内容・支援対象に関する希望・要望	場所の確保、会場費の助成	23 <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作、発表の場の確保 ・市内アクセス環境の良い所に小～中規模の専門性が高い美術、博物系ハコモノを多数用意すべき ・地下鉄構内には広告に使えるスペースが沢山ある。それを芸術文化活動に無料で使わせてほしい
	資金面の支援	12 <ul style="list-style-type: none"> ・作家や中間支援団体への助成金があるとよい ・民間や個人発の芸術文化事業スタートアップに対しての助成を進めてほしい ・道外、国外へフィールドを広げるためのアドバイスと金銭的支援
	広報・情報発信	8 <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術者の活動や発表の情報を一般市民と繋ぐ機会 ・文化芸術に興味を持ってもらうための広告をする資金援助
	啓蒙・教育	8 <ul style="list-style-type: none"> ・市民が幅広く文化芸術活動に触れられる機会の創出 ・将来の観客候補(子どもたち)が芸術文化に接する場を多く設けてほしい
	芸術家間の交流	5 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルを超えた芸術家たちが交流・共作できるようなイベント ・交流・意見交換が出来る気楽な場所が欲しい
	若手・学生への支援	4 <ul style="list-style-type: none"> ・学生団体への支援があると嬉しい ・学生や若手の表現者の研修の機会
	相談窓口・アドバイス	3 <ul style="list-style-type: none"> ・芸術関係の場所を借りたり何か相談をする際の窓口を一本化してほしい ・支援策、助成金から、情報提供まで専門家のいる総合的な窓口が必要
	人材の育成	3 <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリストの育成 ・プロフェッショナルな人材を育成する学校
	他分野連携・マッチング	3 <ul style="list-style-type: none"> ・企業とのコラボ機会 ・記録、編集をする活動を必要としている人たちへマッチングの機会が欲しい
	その他	8 <ul style="list-style-type: none"> ・工芸品など高価な作品の展示、販売ができるイベント ・文化芸術活動を支える活動をしている団体や個人に対する支援

他には、「支援制度の使いやすさに対する希望（7件）」、「行政への要望（6件）」、「支援体制・仕組みに対する要望（4件）」の意見が出された。

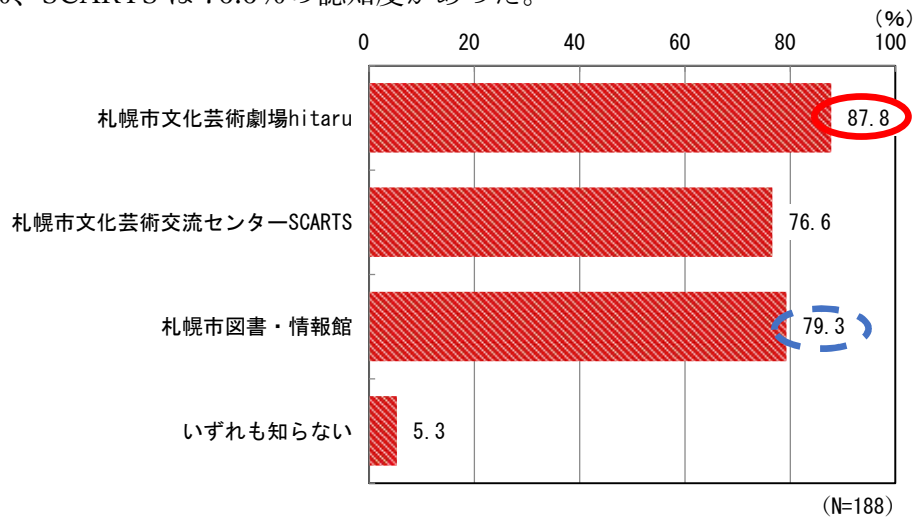
区分	件数	記載内容（抜粋）
支援制度の使いやすさに対する希望	7	<ul style="list-style-type: none"> ・若い団体は助成金を使うことにハードルを感じている。そもそも煩雑だったりするので、そこをサポートする仕組みだったり、簡略化してほしい ・発表の場や成果をゴールに設定した支援ではなく、プロセスや、普段の日常の活動に対して支援をしてほしい ・助成金や補助金を頂ける事業募集の対象期間が数カ月と、短くて不便
行政への要望	6	<ul style="list-style-type: none"> ・行政としての文化芸術に対する理解と戦略が足りないと思う ・行政や管理者自身が発想の転換をし、「支援」ではなく「共にできること」を考えていただきたい ・障がい者アートについて、文化部文化振興課と障がい福祉課が密に連携して推進してほしい
支援体制・仕組みに対する希望	4	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストが資金提供者と一緒に働く組織を評価できる仕組みを作って欲しい
その他	2	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者育成に手間取っている ・個人事業主で店舗を持つハンドメイド作家は商用目的だとされ、イベントに参加させてもらえない、貸さないなどの制約をうけることがあるが、どうにかならないものか

3. 札幌市民交流プラザ

3-1 札幌市民交流プラザ内施設の認知度

Q10. 札幌市民交流プラザ内の施設として知っているものを全てお答えください。〈MA〉

「いずれも知らない」の回答率は5.3%と低く、hitaruは87.8%、札幌市図書・情報館は79.3%、SCARTSは76.6%の認知度があった。



(Q10 認知度 × Q5 収入状況)

収入状況別にみると、文化芸術活動を生業としていない人では他に比べ認知度が低く、「いずれも知らない」も1割と他に比べ高い。

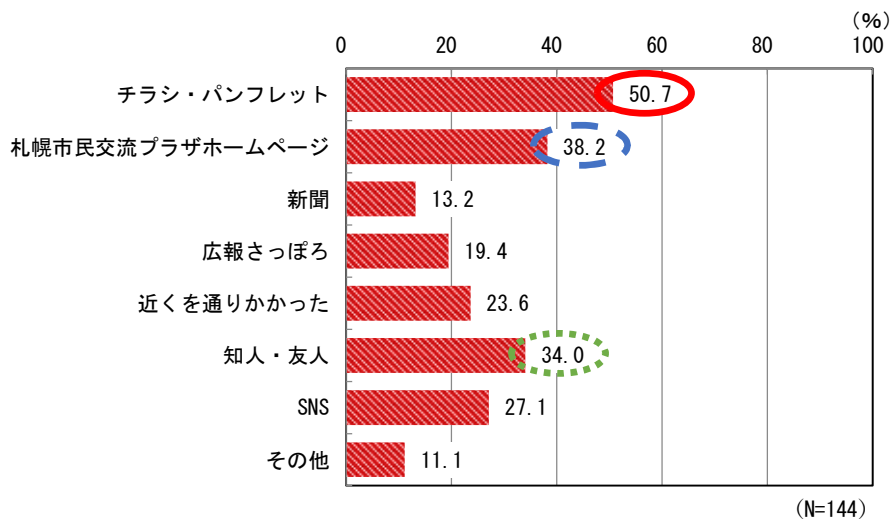
	劇場 hitaru	札幌市文化芸術交流センター SCARTS	札幌市図書・情報館	いずれも知らない
全体(N=188)	87.8	76.6	79.3	5.3
文化芸術活動が生業(専門)(n=38)	84.2	86.8	89.5	2.6
文化芸術活動が生業(兼業)(n=37)	97.3	94.6	94.6	0.0
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	91.7	88.9	80.6	2.8
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	83.8	56.8	64.9	10.8
その他(n=3) ※参考値	66.7	66.7	100.0	0.0

■ 平均値+10以上 ■ 平均値+5以上 ■ 平均値-5未満 ■ 平均値-10未満

3-2 札幌文化芸術交流センターを知ったきっかけ

Q11. 【Q10で「2. 札幌文化芸術交流センターSCARTS」と回答した方限定】SCARTSのことは何で知りましたか。あてはまるものを全てお答えください。<MA>

SCARTSを知ったきっかけとしては、「チラシ・パンフレット」の回答率が最も高く50.7%、次いで「札幌市民交流プラザホームページ（38.2%）」、「知人・友人（34.0%）」などの順となっている。

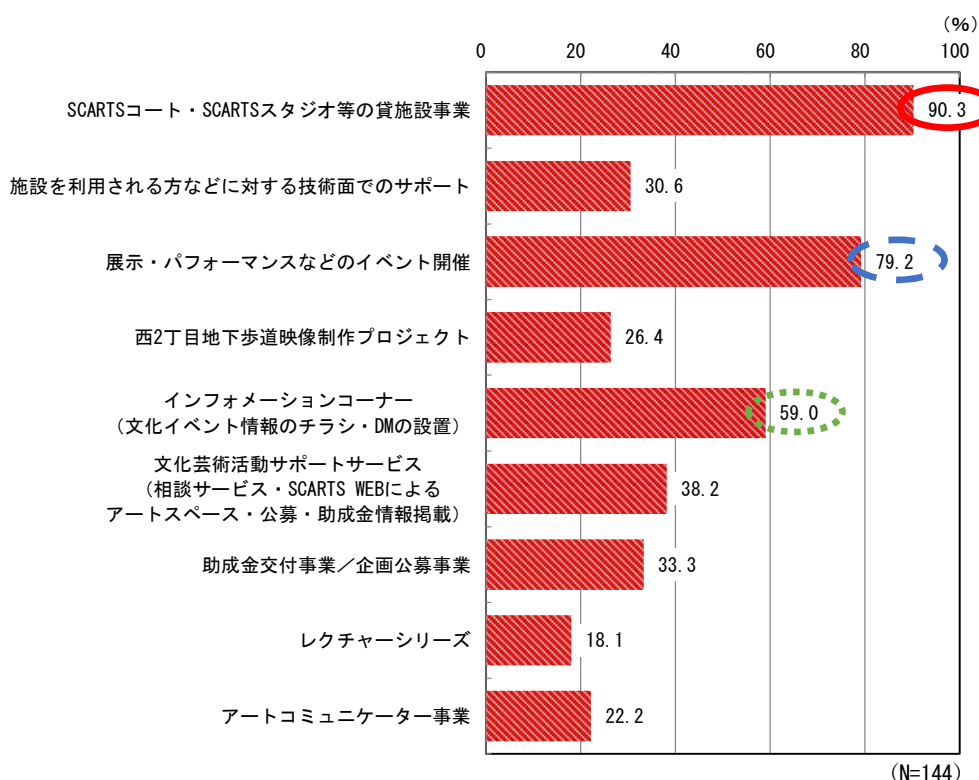


3-3 札幌文化芸術交流センターの事業・サービスの認知度

Q12. 【Q10で「2. 札幌文化芸術交流センターSCARTS」と回答した方限定】SCARTSの事業・サービスで知っているものを全てお答えください。<MA>

SCARTSの事業・サービスの認知度は、「貸施設事業」の回答率が最も高く90.3%、次いで「展示・パフォーマンスなどのイベント開催（79.2%）」、「インフォメーションコーナー（59.0%）」などの順となっている。

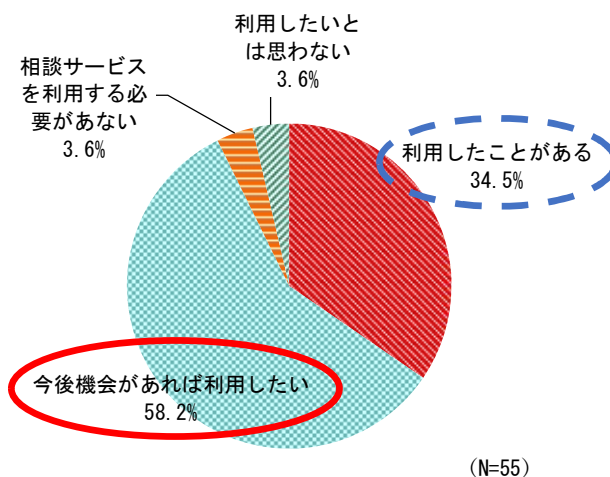
認知度が3割に満たなかった項目は、「レクチャーシリーズ」「アートコミュニケーター事業」「西2丁目歩道映像制作プロジェクト」だった。



3-4 文化芸術サポートサービスの利用経験

Q13. 【Q12. 「6. 文化芸術活動サポートサービス（相談サービス・SCARTS WEB によるアートスペース・公募・助成金情報掲載）」と回答した方限定】文化芸術サポートサービス（相談サービス）を利用したことはございますか。＜SA＞

相談サービスを「利用したことがある」人の割合は 34.5%、「今後機会があれば利用したい」を合わせると、9 割以上の人に利用意向がある。

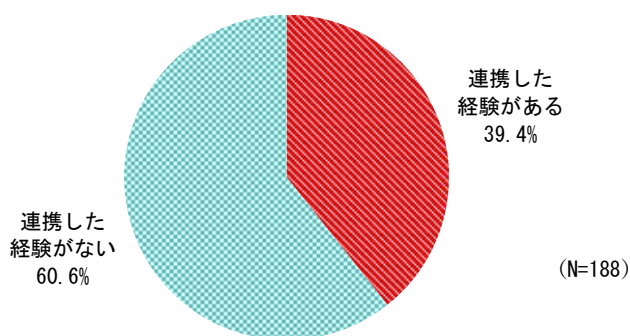


4. 他分野との連携

4-1 他分野との連携の経験

Q14. これまでに他の文化芸術分野との連携の経験はありますか。〈SA〉

「連携した経験がある」と「連携した経験がない」の割合はおおよそ4：6で、経験がない人のほうが多い。



(Q14 他の文化芸術分野との連携経験×Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（専業）〉・〈文化芸術活動が生業（兼業）〉では「連携した経験がある」割合が過半数を超えている。

また、〈文化芸術活動を生業としていない〉では「連携した経験がない」が8割を占めている。

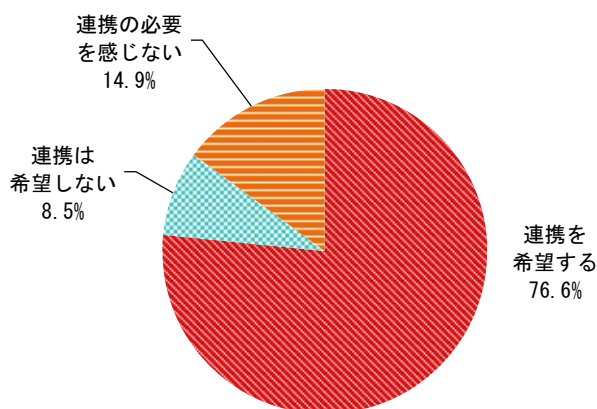
	連携した経験がある	連携した経験がない
全体(N=188)	39.4	60.6
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	52.6	47.4
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	67.6	32.4
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	36.1	63.9
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	18.9	81.1
その他(n=3) ※参考値	66.7	33.3

■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

4-2 他分野との連携意向

Q15. あなたが行っている文化芸術活動について、他の文化芸術分野や社会分野と連携を
していきたいと考えていますか。〈SA〉

他分野との連携について、「連携を希望する」の割合が76.6%と大半が連携を求めている。一方で、「連携の必要性を感じない」は14.9%、「連携は希望しない」は8.5%と、連携を求めない人も1/4程度となっている。



(N=188)

(Q15 他分野との連携希望 × Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（専業）〉〈文化芸術活動が生業（兼業）〉では連携を希望する割合が非常に高く、9割を超えている。

〈文化芸術活動を生業としていない〉では連携の必要性を感じていない割合が3割と高い。

	連携を希望する	連携は希望しない	連携の必要性を感じない
全体(N=188)	76.6	8.5	14.9
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	92.1	2.6	5.3
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	91.9	0.0	8.1
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	86.1	5.6	8.3
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	55.4	17.6	27.0
その他(n=3) ※参考値	100.0	0.0	0.0

■ 平均値+10以上 ■ 平均値+5以上 ■ 平均値-5未満 ■ 平均値-10未満

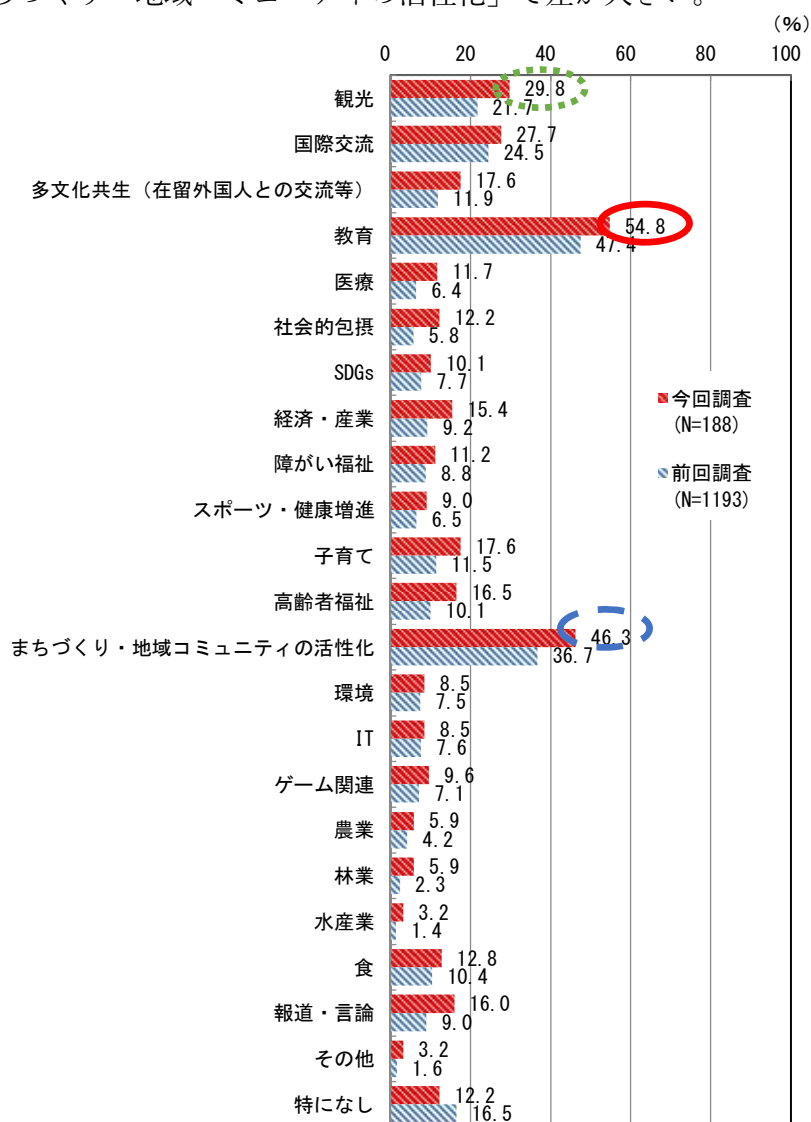
4-3 現在、接点・関わりのある「社会分野」

Q16. あなたが行っている文化芸術活動に関して、現在、接点・関わりのある「社会分野」は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。＜MA＞

現在接点・関わりのある社会分野は、「教育」の回答率が最も高く 54.8%、次いで「まちづくり・地域コミュニティの活性化 (46.3%)」、「観光 (29.8%)」などの順となっている。

「特になし」は 12.2%と低く、連携まではいかないまでも、何らかの社会分野と関わりを持つ人が大半である。

前回調査と比較すると、「特になし」を除く全ての項目で前回調査に比べ回答率が高く、特に「まちづくり・地域コミュニティの活性化」で差が大きい。



「その他」としては、以下のような意見が出された。

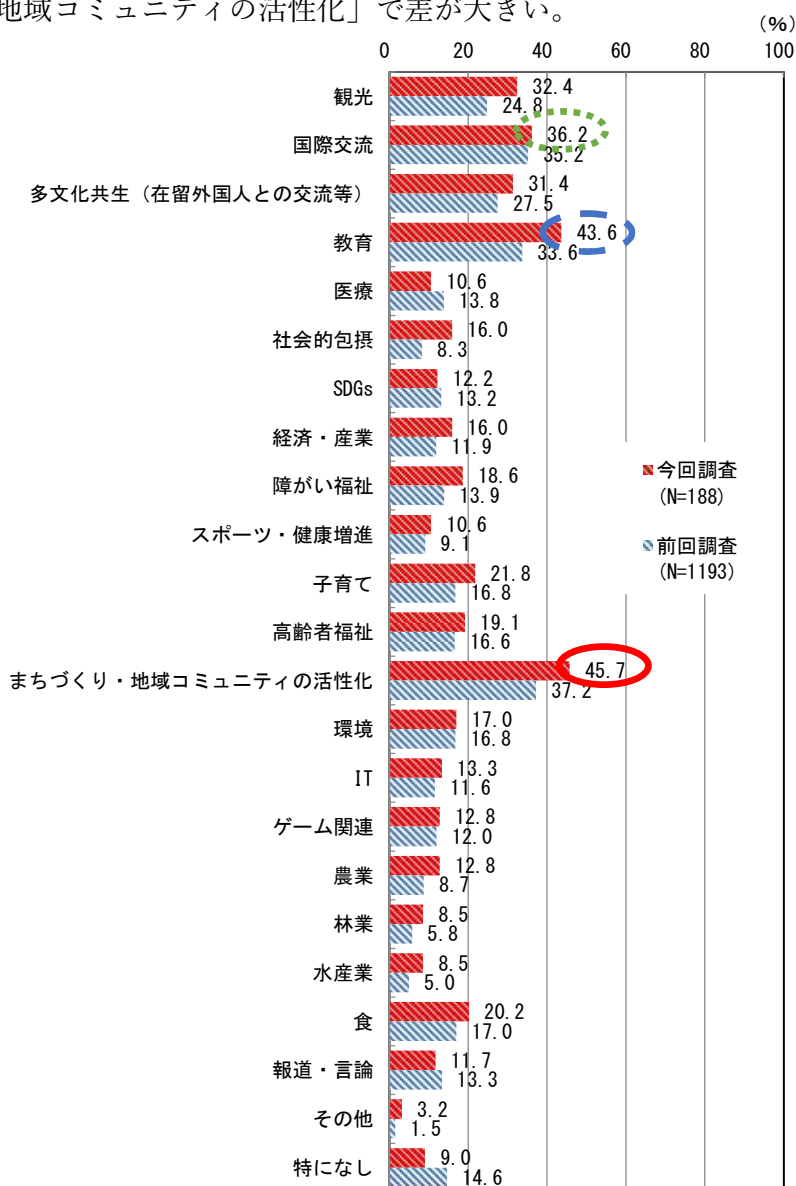
- ・若手育成・青少年ライフスタイル提案
- ・歴史教育
- ・メディア・広告
- ・遊休施設の再活用 など

4-4 今後、接点・関わりを持ちたい「社会分野」

Q17. 今後、接点・関わりを持ちたいと思っている「社会分野」は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。＜MA＞

今後接点・関わりを持ちたいと思っている社会分野は、「まちづくり・地域コミュニティの活性化」の回答率が最も高く45.7%、次いで「教育（43.6%）」、「国際交流（36.2%）」などの順となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で前回調査に比べ回答率が高く、特に「教育」「まちづくり・地域コミュニティの活性化」で差が大きい。



「その他」としては、以下のような意見が出された。

- ・歴史（2件）
- ・LGBTQ+（2件）

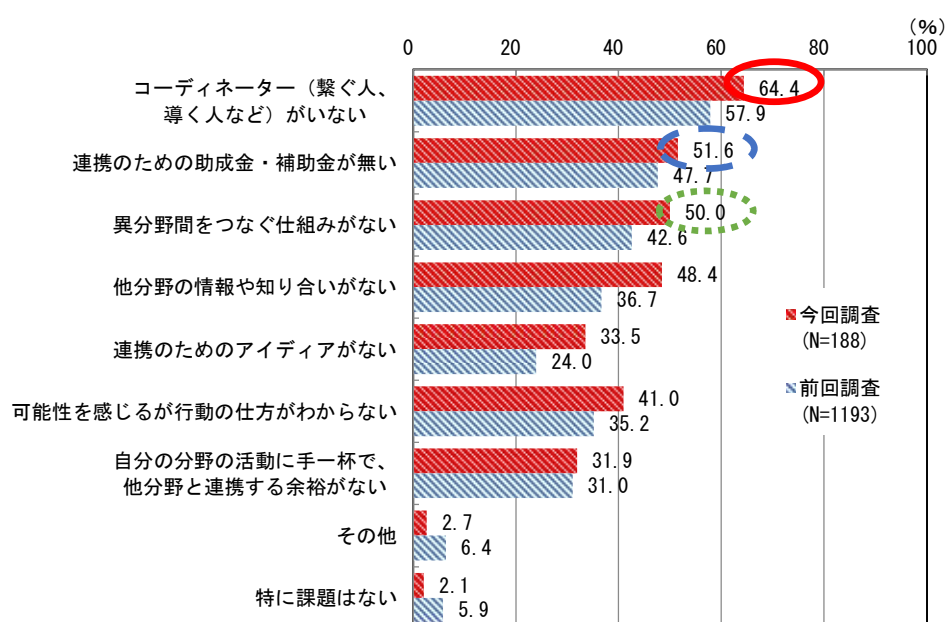
4-5 連携を進めるための課題

Q18. あなたにとって、異なる文化芸術分野間の連携や文化芸術と社会分野の連携を進めるために、どのような課題があると思いますか。あてはまるものを全てお答えください。

<MA>

連携を進めるための課題は、「コーディネーター（繋ぐ人、導く人など）がない」の回答率が最も高く 64.4%、次いで「連携のための助成金・補助金が無い（51.6%）」、「異分野をつなぐ仕組みがない（50.0%）」「他分野の情報や知り合いがない（48.4%）」などの順となっている。

前回調査と比較すると、「その他」「特に課題はない」を除く全ての項目で前回調査に比べ回答率が高く、特に「他分野の情報や知り合いがない」、「連携のためのアイデアがない」の項目で差が大きい。



「その他」としては、以下のような意見が出された。

- ・企業側の理解
- ・すでに行っているが、実現するまでの資金的な余裕がない
- ・国や行政の文化芸術分野の理解が足りない。

(Q18 他分野との連携に向けた課題×Q5 収入状況)

収入状況別にみると、〈文化芸術活動が生業（専業）〉では「他分野と連携する余裕がない」の回答率が他に比べ高く、5割近くを占める。

〈文化芸術活動が生業（兼業）〉では回答率の高い項目が多く、感じている課題が多いことがうかがえる。

	人、導く人などがいない	コーディネート（繋ぐ）がいない	金が無いため助成金・補助	連携のための助成金・補助	異分野間をつなぐ仕組みがない	他分野の情報や知り合いがない	連携のためのアイデアがない	可能性を感じるが行動の仕方がわからない	自分の分野の活動に手一杯で、他分野と連携する余裕がない	その他	特に課題はない
全体(N=188)	64.4	51.6	50.0	48.4	33.5	41.0	31.9	2.7	2.1		
文化芸術活動が生業（専業）(n=38)	65.8	50.0	42.1	52.6	31.6	31.6	44.7	2.6	0.0		
文化芸術活動が生業（兼業）(n=37)	83.8	64.9	70.3	43.2	48.6	56.8	32.4	5.4	0.0		
生業としたいがほぼ無収入(n=36)	69.4	52.8	50.0	58.3	30.6	41.7	30.6	5.6	2.8		
文化芸術活動を生業としていない(n=74)	51.4	44.6	43.2	44.6	29.7	39.2	24.3	0.0	4.1		
その他(n=3) ※参考値	66.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0		

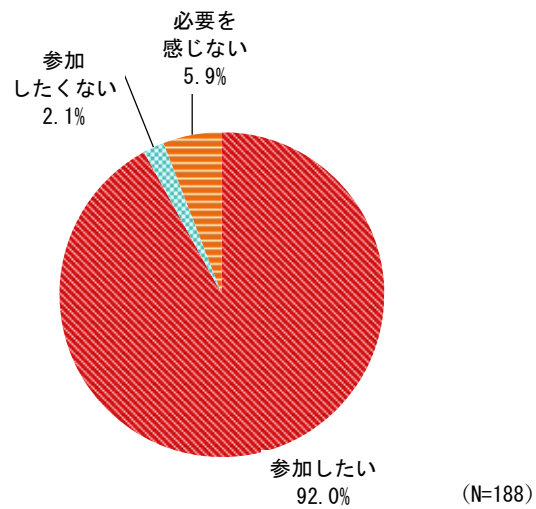
■ 平均値 + 10 以上 ■ 平均値 + 5 以上 ■ 平均値 - 5 未満 ■ 平均値 - 10 未満

4-6 他分野との交流意向

Q19. 今後、異なる芸術分野や他分野との交流機会があれば参加したいと思いますか。

<SA>

異なる文化芸術分野や他分野との交流機会について、「参加したい」の割合が92.0%と大半を占めた。



5. まとめ

文化芸術活動者調査から明らかになった事項を整理する。

■文化芸術活動の課題

- ・大半が何らかの課題を感じており、特に「収入を得るための場・機会」「発表の資金」「経済的支援者・協力者」「日常的な活動経費」など、資金面での課題をあげる人が多い。
- ・特に、文化芸術活動を生業としている人のうち〈兼業〉は人材や資金面で、文化活動を生業としたいがほぼ無収入の人は資金面で、多くの課題を抱えていることがうかがえた。

■求められる支援策

- ・「補助金・助成金制度」を求める人は約8割、「補助金・助成金制度の情報提供」を求める人は約7割と、補助金・助成金制度へのニーズが高い。
- ・文化芸術活動を生業としている人では、「アーティストを必要としている依頼者・雇用者とのマッチング」へのニーズも7割以上と高くなっている。
- ・「金銭的支援（運営・技術的助言は不要）」と「寄り添い型の支援（運営・技術的助言が必要）」を比べると、「寄り添い型の支援」を求める人の方が約3：1の割合が多い。
- ・期待する支援策に関する自由記述では、「場所の確保、会場費の助成」、「資金面の支援」、「広報・情報発信」、「啓蒙・教育」に関する意見が多く出された。

■札幌市民交流プラザの認知度

- ・hitaru、SCARTS、図書・情報館の認知度はいずれも7割以上と高く、特に文化芸術活動を生業としている人の認知度はいずれも8割以上と高い。
- ・SCARTSの事業に関する認知度は、「貸施設事業」で9割以上と高いが、「イベントの開催(約8割)」「インフォメーションコーナー(約6割)」を除く6事業は5割未満だった。
- ・「文化芸術活動サポートサービス(相談サービス・SCARTS WEBによるアートスペース・公募・助成金情報掲載)」の認知度は約4割で、そのうち利用したことがある人は3割程度だが、「今後機会があれば利用したい」を合わせると9割以上の利用意向がある。

■他分野との連携

- ・他の文化芸術分野との連携の経験は、おおよそ6：4の割合で「ない」人のほうが多いが、全体の7割以上、文化芸術活動を生業としている人では9割以上が、今後の連携を希望している。
- ・現在接点・関わりのある社会分野は「教育」「まちづくり・地域コミュニティの活性化」が多く、今後の連携を希望する分野もこの2つへの希望が多い。
- ・他分野との連携に向けた課題としては、「コーディネーター」「連携のための助成金・補助金」「異分野間をつなぐ仕組み」などの不足があげられた。
- ・異なる芸術分野や他分野との交流機会については、9割以上が「参加したい」と回答しており、ニーズが非常に高いと考えられる。

III. 調査票

札幌市文化芸術活動者実態調査

札幌に活動拠点をもち、文化芸術活動に携わる皆さまへ

札幌市では、文化芸術活動に関わる方々が新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることも踏まえて、文化芸術活動に携わっている方々の現状、課題及びニーズ等の実態を幅広く把握するためのアンケート調査として、2021年に「札幌市文化芸術活動実態調査」を実施しました。

上記の調査で、「文化芸術活動をするにあたって不足している・課題だと感じていること」の設問に複数項目で7割程度の回答があった一方、「助成金・補助金を申請しなかった理由」として「情報を知らなかった」「自分の活動に適した助成金・補助金がなかった」との回答が多数を占めており、文化芸術活動における支援充実の必要性が明らかとなりました。

そこで、さらなる充実策を検討するため、文化芸術活動者を対象としたアンケート調査を実施します。趣旨をご理解いただき、ご回答に協力いただきますよう、お願い申し上げます。

■この調査票の対象者

- 札幌市に在住又は札幌市を主な活動の場として、文化芸術活動を行っている方です。

○文化芸術の直接的な表現者及び、それを支える人々（プロデューサー、テクニカルスタッフ、コーディネーター等）、
○施設（劇場、ギャラリー、ライブハウス等）で働く方々など、幅広い文化芸術の担い手
○文化芸術のサークル、ボランティア、ファンクラブ等に参加している方 など

■回答方法

- 下記のURL又はQRコードより、Web回答フォームへ移動の上ご回答ください。

<https://enquete.cc/q/bunkajittai2022>



■回答締切は **令和4年10月31日(月)** です。

■ご回答に当たって

- ご回答は1人1回にてお願いします。
- 調査は無記名式で、調査結果は統計的に処理するため、個人が特定される形で公開されることはございません。

■アンケート調査に関するお問い合わせ先

【調査業務受託者】株式会社ノーザンクロス

- 担当：井上、常本
- 電話：011-232-3661（※電話受付は平日9:00~17:00まで）
- FAX：011-232-4918 ・Eメール：bunkajittai2022@northerncross.co.jp

【調査実施者】札幌市市民文化局文化部文化振興課

- 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル 10階



【回答者についてお聞きします】

Q1：あなたの性別をお答えください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

Q2：お住まいの区をお答えください。

1. 中央区 2. 北区 3. 東区 4. 白石区 5. 厚別区 6. 豊平区
7. 清田区 8. 南区 9. 西区 10. 手稲区 11. 札幌市外 ()

Q3：年齢をお答えください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代
7. 70代 8. 80代以上

Q4：現在、あなたが最も力を入れて取り組んでいる文化芸術活動の分野をひとつだけお答えください。

1. 文芸 2. 音楽 3. 美術 4. 工芸 5. 演劇 6. 舞踊
7. メディア芸術 8. 伝統文化 9. アイヌ文化
10. 生活文化 11. デザイン・建築・ファッション
12. その他 () 13. 特になし

Q5：あなたの「文化芸術活動への関わり方」と「文化芸術活動による収入の状況」について、最も近いものをひとつお答えください。

1. 文化芸術活動を生業としており、生活の収入源のほとんど全てである（専業）
2. 文化芸術活動を生業としており、生活の収入源の一部である（兼業）
3. 文化芸術活動を生業としたいが、生活の収入源にはなっていない（文化芸術活動ではほぼ無収入）
4. 文化芸術活動を生業とせず、生活の収入源としていない
5. その他 ()

【文化芸術活動への支援についてお聞きします】

Q6：あなたが文化芸術活動をするにあたって不足している・課題だと感じていることで、あてはまるものを全てお答えください。

1. 【場・機会】制作や練習の場所
2. 【場・機会】インフラ・設備機器
3. 【場・機会】発表の場・機会
4. 【場・機会】専門性・技術向上のための育成プログラム
5. 【場・機会】文化芸術に関する広い学びの場・機会
6. 【場・機会】交流・出会いの場・機会
7. 【場・機会】広報・告知・情報発信の場・機会
8. 【場・機会】相談の場・機会
9. 【場・機会】収入を得るための場・機会
10. 【人材】プロデュースする人
11. 【人材】ディレクションする人
12. 【人材】マネジメントする人（広報・PR・マーケティング・営業等）
13. 【人材】賛同者・理解者
14. 【人材】経済的支援者・協力者
15. 【人材】スタッフ・一緒に活動する人
16. 【人材】後継者
17. 【人材】批評家・評論家・研究者
18. 【人材】記録・編集の専門家
19. 【人材】法律・法的問題について相談できる専門家
20. 【資金】制作や練習の資金
21. 【資金】発表の資金
22. 【資金】PR や広報の資金
23. 【資金】日常的な活動経費（材料費、人件費、旅費、場所の使用料・賃料、管理費等）
24. 【資金】リサーチ・公演や制作方法の検討・準備の経費
25. 【資金】スキルアップ（研修・交流含む）の経費
26. 【資金】設備・機材等の投資資金
27. 【資金】記録・アーカイブの作成費
28. その他（ ）
29. 不足している・課題だと感じていることはない

Q7：文化芸術活動に必要なと思う支援について、あてはまるものを全てお答えください。

(1)「発表の場・機会」についての支援策

1. 参加可能な発表機会についての情報提供
2. 活動者間での発表機会のマッチング
3. 適当な会場の案内
4. 相談窓口
5. その他 ()

(2)「収入を得るための場・機会」についての支援策

1. 参加可能な機会についての情報提供
2. アーティストを必要としている依頼者・雇用者とのマッチング
3. 資金獲得に関するセミナー・コンサルタント等の情報提供
4. 相談窓口
5. その他 ()

(3)「発表の資金」についての支援策

1. 補助金・助成金制度
2. 補助金・助成金制度の情報提供
3. 資金獲得に関するセミナー・コンサルタント等の情報提供
4. 相談窓口
5. その他 ()

Q8：現在のあなたの活動に、より必要だと感じる助成事業の形態をひとつお答えください。

1. 新規事業の立ち上げのための金銭的支援（運営・技術的助言は不要）
2. 金銭的支援とともに事業の自走に向けた寄り添い型の支援（運営・技術的助言が必要）
3. どちらとも言えない
4. その他 ()
5. 助成金を必要としていない

Q9：その他、文化芸術活動に関して期待する支援等ございましたらお答えください。

()

【札幌市民交流プラザについてお聞きします】

今後、市民交流プラザ（札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書・情報館）において、アーティストや文化芸術活動者等に対する支援策を強化していくことを検討しています。そこで、市民交流プラザについてお聞きします。

Q10：札幌市民交流プラザ内の施設として知っているものを全てお答えください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 札幌文化芸術劇場 hitaru | 2. 札幌文化芸術交流センターSCARTS |
| 3. 札幌市図書・情報館 | 4. いずれも知らない |

（Q10で「2. 札幌文化芸術交流センターSCARTS」と回答した方限定）

Q11：SCARTSのことは何で知りましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. チラシ・パンフレット | 2. 札幌市民交流プラザホームページ |
| 3. 新聞 | 4. 広報さっぽろ |
| 5. 近くを通りかかった | 6. 知人・友人 |
| 7. SNS | 8. その他（ ） |

（Q10で「2. 札幌文化芸術交流センターSCARTS」と回答した方限定）

Q12：SCARTSの事業・サービスで知っているものを全てお答えください。

1. SCARTS コート・SCARTS スタジオ等の貸施設事業
2. 施設を利用される方などに対する技術面でのサポート
3. 展示・パフォーマンスなどのイベント開催
4. 西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト
5. インフォメーションコーナー（文化イベント情報のチラシ・DMの設置）
6. 文化芸術活動サポートサービス（相談サービス・SCARTS WEBによるアートスペース・公募・助成金情報掲載）
7. 助成金交付事業／企画公募事業
8. レクチャーシリーズ
9. アートコミュニケーター事業

（Q12で「6. 文化芸術活動サポートサービス（相談サービス・SCARTS WEBによるアートスペース・公募・助成金情報掲載）」と回答した方限定）

Q13：文化芸術活動サポートサービス（相談サービス）を利用したことはございますか。

1. 利用したことがある
2. 今後機会があれば利用したい
3. 相談サービスを利用する必要がない
4. 利用したいとは思わない（その理由： ）

【他分野との連携についてお聞きします】

Q14：これまでに他の文化芸術分野や社会分野との連携の経験はありますか。

1. 連携した経験がある（連携した分野等： ）
2. 連携した経験がない

Q15：あなたがやっている文化芸術活動について、他の文化芸術分野や社会分野と連携をしてみたいと考えていますか。

1. 連携を希望する
2. 連携は希望しない
3. 連携の必要は感じない

Q16：あなたがやっている文化芸術活動に関して、現在、接点・関わりのある「社会分野」は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

- | | | | |
|-------------------|------------------------|----------------------|-----------|
| 1. 観光 | 2. 国際交流 | 3. 多文化共生（在留外国人との交流等） | |
| 4. 教育 | 5. 医療 | 6. 社会的包摂 | 7. SDGs |
| 8. 経済・産業 | 9. 障がい福祉 | 10. スポーツ・健康増進 | 11. 子育て |
| 12. 高齢者福祉 | 13. まちづくり・地域コミュニティの活性化 | | |
| 14. 環境 | 15. IT | 16. ゲーム関連 | 17. 農業 |
| 18. 林業 | 19. 水産業 | 20. 食 | 21. 報道・言論 |
| 22. その他（ ） | 23. 特になし | | |

Q17：今後、接点・関わりを持ちたいと思っている「社会分野」は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

- | | | | |
|-------------------|------------------------|----------------------|-----------|
| 1. 観光 | 2. 国際交流 | 3. 多文化共生（在留外国人との交流等） | |
| 4. 教育 | 5. 医療 | 6. 社会的包摂 | 7. SDGs |
| 8. 経済・産業 | 9. 障がい福祉 | 10. スポーツ・健康増進 | 11. 子育て |
| 12. 高齢者福祉 | 13. まちづくり・地域コミュニティの活性化 | | |
| 14. 環境 | 15. IT | 16. ゲーム関連 | 17. 農業 |
| 18. 林業 | 19. 水産業 | 20. 食 | 21. 報道・言論 |
| 22. その他（ ） | 23. 特になし | | |

Q18：あなたにとって、異なる文化芸術分野間の連携や文化芸術と社会分野の連携を進めるために、どのような課題があると思いますか。あてはまるものを全てお答えください。

1. コーディネーター（繋ぐ人、導く人など）がない
2. 連携のための助成金・補助金がない
3. 異分野間をつなぐ仕組みがない
4. 他分野の情報や知り合いがない
5. 連携のためのアイデアがない
6. 可能性を感じるが行動の仕方がわからない
7. 自分の分野の活動に手一杯で、他分野と連携する余裕がない
8. その他（ ）
9. 特に課題はない

Q19：今後、異なる芸術分野や他分野との交流機会があれば参加したいと思いますか。

1. 参加したい
2. 参加したくない
3. 必要性を感じない

以上で調査は終了となります。
ご協力ありがとうございました。